

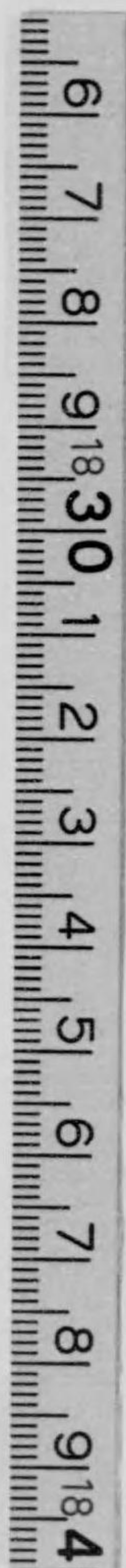
14.5  
127

大正十五年三月

史蹟名勝天然紀念物調查報告

第四卷

山口縣



始





緒言

- 一 本書第一卷、第二卷、第三卷ニ於テハ史蹟名勝天然紀念物保存法第一條ニ依リ指定ヲ受ケタル ◎史蹟 松下村塾 吉田松陰幽囚家屋 ◎名勝 錦帯橋 長門峽 ◎天然紀念物 竹柏自生北限地 樟の森 瀧穴 景清洞 大正洞 中尾洞 白蛇棲息地 鶴渡來地 ヲ掲ケタリ、本書ハ引續キ大正十四年末迄ニ同法ニ依リ指定ヲ受ケタル 史蹟一件、天然紀念物三件ニ關スル記事及寫眞ヲ掲載セルモノナリ
- 一 本縣ニハ貴重ナル史蹟名勝及天然紀念物豊富ナレトモ未ダ指定セラレサルモノ多シ是等ハ今後指定ノ進行ニ應シ漸次卷ヲ追フテ報告セントス。



史蹟名勝天然紀念物調査報告 第四卷

目次

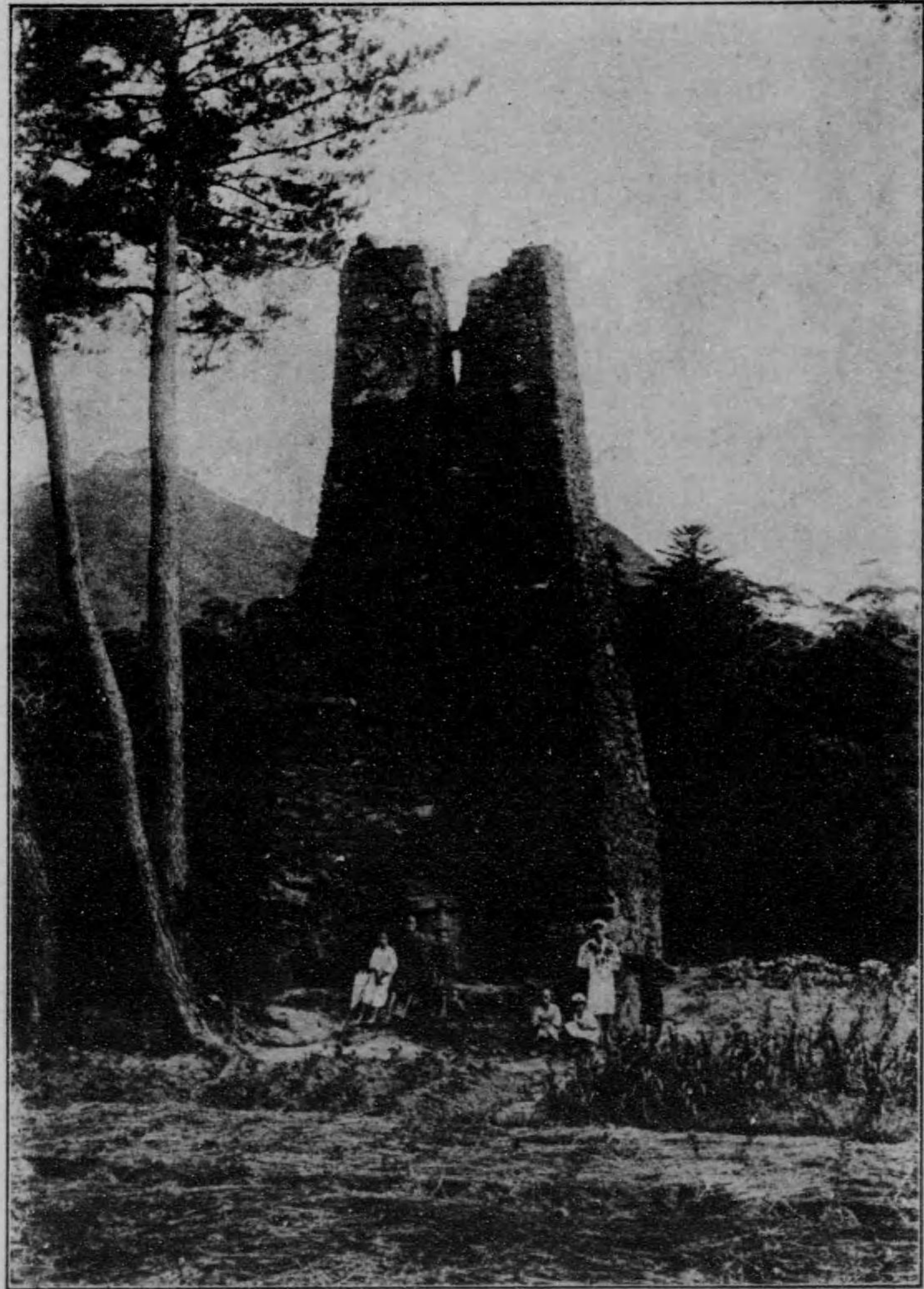
一三	史蹟	反射爐	.....	一頁
一四	天然紀念物	明神池	.....	五
一五	同上	ゑひめあやめ自生南限地帯	.....	九
一六	同上	檜の森	.....	一五



大正三十九  
15. 3. 17  
内交

*[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*





萩町反射爐

目次





14.5-127

# 史蹟名勝天然紀念物調査報告 第四卷

## 一三 反射爐

縣假指定 大正十三年四月廿三日

指定年月日 同 年十二月九日

所在地 阿武郡萩町椿東小畑上ノ原

萩市街ノ東方二十町、東萩驛ノ東北約五町何レモ自動車ノ便アリ

反射爐ハ萩町椿東小畑上ノ原ニ於ケル安政三年ヨリ着手セル長藩ノ軍艦建造地

及兵器製造場ヲ置キタル戎ヶ鼻ニ近接シ小畑灣ヲ瞰下スル南北ニ狹長ナル小丘

土ニアル高燥ナル畑地ノ東南端ニ二株ノ松樹ト相並ンデ直立ス、今此爐及其所在

地ハ共ニ同地天野某ノ所有ナリ、爐全部ノ構造規模及作業狀態等ハ調査ノ材料ヲ

欠グヲ以テ全ク知ルヲ得ザレドモ現存スルモノハ畑地ノ一角ニ壹基ノ煙突ト爐

ノ一部ノミナリ、煙突ハ唯タ壹基ノ如ク見ユルモ實ハ貳基ヲ相連結セシメテ壹基



トナシタルモノニシテ基底部ヨリ三分二迄ハ壹基トナリ夫ヨリ上部ハ二本ニ岐  
ル、築造材料ハ耐火粘土、玄武岩片、大型煉瓦及塗喰ヲ用ユ、煙突ノ内部即チ煙道ハ整  
然タル正方形ノ堅穴ニシテ底部ヨリ頂上迄ハ全部煉瓦ヲ用ヒ爐ノ基底部ヨリ頂  
上ニ向ツテ三分二迄ハ四周ヲ玄武岩片ト粘土トヲ以テ卷キ其上ニ塗喰ヲ施シテ  
雨露ニ粘土ノ洗ヒ去ラル、ヲ防グ、尖端ノ三分一ハ全部巨大ナル煉瓦ヲ表ハス、然  
レドモ塗喰ハ今ハ殆ド剥落シ唯ダ爐ノ南面ニノミ僅ニ殘存シつたかすら爐ノ全  
面ヲ覆ヲ見ル

爐及煙突ハ地面ヨリ頂上迄ノ總高サ三十九尺ニシテ基底部ハ長方形ヲ爲シ東西  
ニ長ク南北ニ短カシ其前面ハ十八尺側面ハ十二尺五寸ナリ、明治二十七年四月三  
日ノ正午萩地方ニ稀ニ見ル強震アリ其際尖端ノ煉瓦部ヲ僅ニ崩壊シ其數個ヲ散  
落セリ、此爐ノ煉瓦建造ハ窯業用ヲ除ケバ恐ラクハ本縣ニ現存スル最古ノモノナ  
ルベシ

爐ノ内部耐火構造ハ内壁ニ厚サ二尺餘ノ耐火粘土ヲ塗付ケ耐火粘土ヲ以テ燒キ  
固メタル長サ一尺八寸徑三寸許ノ洋釘形ノモノヲ多數ニ相連接シテ打込ミ充分

### 高熱ニ耐ユル装置ト爲セリ

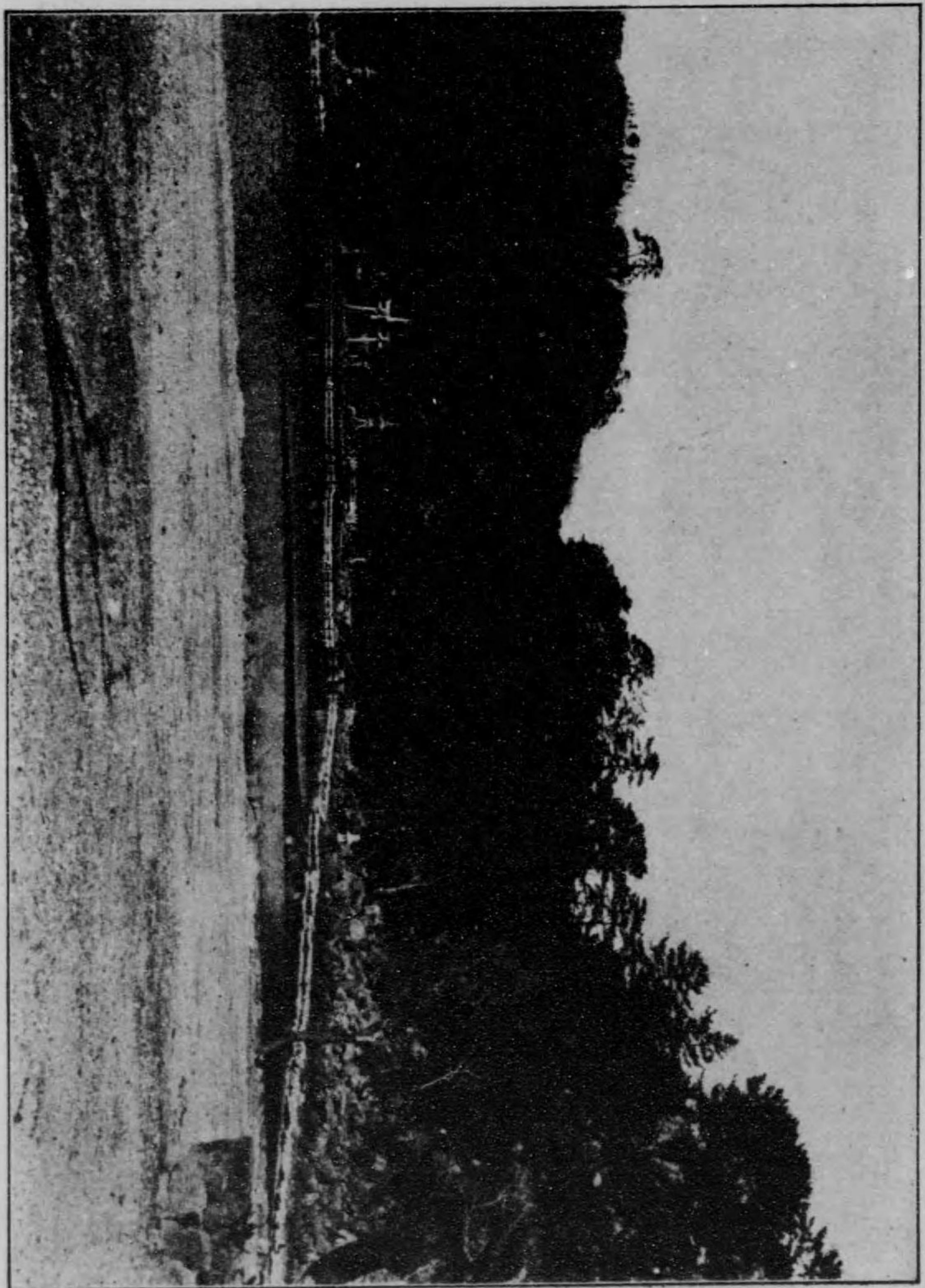
耐火粘土ハ小畑附近ニ産スル石英粗面岩ノ分解物ニシテ粘性强ク石英ノ微粒ヲ  
含ミ窯業用ノ棚又ハエンジンゴロ等ノ道具土ニ適當スルモノニシテ元來純白色ノモ  
ノナレドモ加熱ノ爲ニ含有スル鉄分酸化シテ紅色ヲ呈ス、其耐火度ハゼーゲル第  
廿八番前後ノモノヲ使用セリ

爐ノ築造ハ内患外憂ノ極ニ達シ海内騒然タル安政五年ニシテ開始ノ月日明カナ  
ラザレドモ萬延、文久年間ニ亘リテ盛ニ使用シタル結果煙突内面ノ煉瓦及耐火粘  
土ヲ一面ニ鏡ノ如ク熔融膠結シタル状態ヨリ推スモ如何ニ強度ノ熱ヲ用キテ作  
業セシカラ證スルニ足ル

爐ノ北側廣場ニハ和蘭太式ノ大風車ヲ装置シ爐内ニ送風シタルコトモアリシヲ  
記憶スト唱フルモノモアレドモ果シテ風車ナリシヤ否ヤ明カナラズ、該所内部ニ  
於ケル装置及作業等ハ絶対秘密ヲ保チ作業場ノ四周ニハ竹柵ヲ設ケテ絶対ニ他  
人ノ出入ヲ禁斷セシ結果今日其状態ヲ詳細ニ知ルモノ現存セザレバ調査ノ途無  
キヲ遺憾トス



嘉永六年六月四日亞米利加水師提督ベルリ軍艦四隻ヲ帥ヒテ突然浦賀ニ來リ通  
 商互市ヲ請フヤ永ク慣レタル大平ノ迷夢ハ忽然トシテ破レ儉安忌戰開港ヲ主唱  
 スルモノ、尊王ノ大義ヲ唱ヘ攘夷ヲ決行セントスルモノ相中半シ議論沸騰上下驚  
 惶國內到所騷然又々騷然タリ、續テ同年七月十七日露艦長崎ニ來ルヤ人心洶々又  
 タ洶々タリ、長藩ハ鎖國主義ヲ執リ開港ヲ非トシテ舉國一致攘夷論者ノ急先鋒ト  
 ナリ海防ノ議ヲ紛起シ環海ノ要地要所ニ特ニ海峽港灣ノ入口等ニ力ヲ用キ多數  
 ノ砲臺ヲ築キ銃砲彈藥ヲ備ヘ地雷火ヲ埋メ戍兵ヲ增加配置シ火藥製造所ヲ要所  
 ニ置キ又々軍艦建造場及兵器製造場ヲ設ケテ刀劍銃砲彈丸ヲ造リ海ニハ戰艦ヲ  
 浮ベ到所ニ見張番所ヲ置キ大ニ緩急ニ備フ、安政三年小畑戎ヶ鼻ニ於テ軍艦丙辰  
 丸ヲ次テ庚申丸ヲ造ル、其際製艦ノ鑄造材料其他鑄物ノ鋼化ニ反射爐ノ必要ニ迫  
 ラレタルモ其設備ヲ缺グテ遺憾トシ長藩ノ軍艦建造地及大砲鑄造場ト遠カラザ  
 ル小畑上ノ原ノ地ヲトシテ製鉄ニ缺グベカラザル反射爐ヲ築キ困難ニ處シタル  
 モノ即チ是ナリ、



池 神 明 町 萩



一四 明神池

指定年月日 大正十三年十二月九日

所在地 阿武郡萩町越ヶ濱

萩町ノ東一里半、東萩驛ノ東北一里、自動車ノ便アリ、阿武郡ノ海岸ナル馬鞍山ヨリ西方ニ向ツテ日本海ニ突出スル越ヶ濱半島ハ東西ノ延長二十町、南北幅廣キ所八町、面積約〇五平方里ニシテ延長三町、幅一町ノ砂洲ヲ地頸部トシ本陸ト笠山トヲ連絡ス、最高部ハ完全ナル圓錐形ノ成層火山ニシテ海拔百十二米突半、頂上ニハ徑卅米突ノ休噴火口アリテ北縁僅ニ崩壊スルモ殆ド完全ナリ半島ノ全部玄武岩、燒石、熔岩、火山灰ヲ以テ構成セラレ全山草叢ヲ以テ被ハル、モ山麓ハ老樹鬱蒼トシテ暖地ノ植物密生シ林間ニ橋ノ點々自生スルヲ見ル、地頸部ハ越ヶ濱ノ村落ニシテ五百餘戸軒ヲ接シテ小市街ノ態ヲ爲ス、地頸部ノ北ヲ嫁泣ト呼ヒ南ヲ夕潮ト云フ、何レモ良灣ヲ成ス、笠山ハモト海中ニアリシ玄武岩臺地ニシテ狐島、中ノ臺、鶴江臺、羽島、大島、肥島、櫃島



尾島、相島ノ如キ形狀ノモノナリシガ昔時越ケ濱半島ノ孤立シタル島ナリシ時代  
台地ノ略ホ中央部ニ噴火シテ成層火山ヲ造リシ結果遠望恰モ笠ノ如キ形狀トナ  
レルヲ以テ此名アル所以ナリ、其後潮流ノ作用ニ依リテ砂洲ヲ以テ笠山ト本陸ト  
ヲ中ノ臺、孤島ト同様ニ相接着セシモノニシテ越ケ濱ノ地名ハ砂洲上ヲ波浪ノ打  
越ヘ又ハ舟ヲ曳キテ越ヘタルヨリ地名ト成レルモノナリ  
明神池ハ笠山ト砂洲トノ間ニ殘サレタル海ノ一部ニシテ人工ニ依ルモノニアラ  
ズシテ全ク天然ノ池ナリ  
明神池ハ舊名辨天池又ハ御茶屋ノ池ト呼ビタルコトアリ、辨天池トハ池ノ北方ニ  
アル小島上ニ辨天ヲ祀レル小祠アルガ故ナリ、御茶屋池トハ元毛利家ノ所有ニシ  
テ池畔ニ藩主ノ御茶屋アリシヲ以テ云フ、明神池トハ池ノ西側ニ貞享三年安藝殿  
島ヨリ靈ヲ分チ祀レル嚴島神社アルヲ以テ此名アリ  
池ハ大池及小池ヨリ成リ相連絡ス、大池ノ水面ハ二千七百六十坪、小池ハ二百八十  
坪ナリ、大池ノ北側ハ斷崖ニシテ東岸ハ明治二十幾年ノ頃迄ハ砂濱ナリシガ小學  
校運動場ヲ設クル爲メ石垣ヲ施セリ、故ニ其部分ヲ現時モ濱ト呼ブ、大池ノ最深部

本

ハ中央ニシテ約二尋半、小池ハ一尋ニシテ何ワレモ周邊ニ向ツテ淺シ、池底ハ泥ヲ  
以テ滿タレ其層頗ル深ク數種ノ海藻ヲ自生スト云フ、池水ハ鹹水ニシテ池ハ全ク  
外海ト絶タル、モ岩石ノ間隙ヨリ海水連絡注排ヲ爲シ外海水ノ干満ニ應シテ増  
減ス、池ノ東縁ヲ除クノ外奇岩重疊シ多數ノ牡蠣附着ス  
池水ノ比重ハ所ニヨリテ多少ノ相違アルモ平均一〇一八〇五乃至一〇一八四七  
ニシテ海水ヨリ遙ニ値分ノ低キヲ知ル、然レドモ降雨連續セバ表面ノ比重ハ著シ  
ク低下スルヲ見ル、此時ニ當リ魚類ハ水底ニ沈降シテ動かズ  
水温ハ表面ト下層トノ差四度以外ニシテ表面水温ノ上昇セルハ氣温ニ支配サレ  
下層水温下降セルハ水深及面積ニ關係シテ水温ノ上ボラダレニ依ルモノナリ又  
タ小池ト大池トハ温度相違シ大抵一度半ノ差ヲ示セリ  
池中ニハまだひ、くろだひ、くろや、すゞき、ふく、かれい、ぼら、ゑい、こ  
ち、たなご、このしろ、かははぎ、ざざみ、いさき等其近海ニ於ケル磯附魚ノ  
大部分ヲ見ル、就中くろだひ、くろや、ぼら、このしろ等ハ池中ニ盛ニ孵化シ春  
期ニハ池ノ周圍ニ其仔魚ノ群ハ池水ヲ黒色トナス

七



まだひびき總テ漁人ノ豊魚ヲ祈ル爲メ放魚シタルモノナリト云フ  
 魚類ハ斯ク磯附魚ノミニシテ廻遊性ノさば、いわし、ぶり、しいら、かつを等  
 ハ一尾モ認ムルコトヲ得ズ  
 池中ノ魚類ハ各々同類ヲ以テ集團ヲ作り廻遊スルコト外海ニ於ケル自然ノ状態  
 ト少シモ異ナルコトナク全ク天然ノ水族館ナルガ如シ  
 池畔ニ据シテ餌ヲ投ズレバ數百尾ノ魚ハ手ノ尖端ニ集マリ來ツテ餌ヲ競ヒ採ル  
 有様ハ宛ラ鯉群ノ投餌ヲ競フニ異ナラズ  
 池畔ハ玄武岩ノ燒岩起伏參差シ、岩角上ニハ十數基ノ石燈籠所々ニ配置セラレ鬱  
 蒼タル老樹其上ニ枝ヲ垂レ、嚴島神社及辨天祠ハ樹間ニ隱見シ其影ヲ逆ナマニ池  
 中ニ投ズルナド附近ノ副景ト相俟ツテ風光實ニ明媚ナリ、池ノ西側ニ風穴アリ里  
 稱之ヲ「ヒヤシ」ト呼ブ、夏期盛ニ冷風ヲ吐出ス、製氷業ノ起ラザル以前夏期煮肴ヲ冷  
 凍シテ客ニ出スヲ以テ其地ノ名物トセリ  
 越ヶ濱半島ニハ明神池ノ如キ天然池數十個アリ就中有名ナルヲあをびかり池、ひ  
 やうたん池、あび池トスルモ何ツレモ規模明神池ニ及バズ



地限南生自めやあめひる 村浦西



一五 忍ひめあやめ自生南限地帯

指定年月日 大正十四年十月八日

所在地 佐波郡西浦村大字湯ノ峠

山陽線三田尻驛ノ西々南二里強ノ所ニアリテ同驛ヨリ西浦村小茅山ノ西麓海岸ナル小茅迄自動車又ハ馬車ノ便アリ、小茅ヨリ小丘ヲ登ルコト五六町ニシテ其自生地域ニ入ルヲ得

忍ひめあやめ自生地ナル小茅山ハ大字湯ノ峠一部ノ呼稱ニシテ瀬戸内海ニ僅ニ尖出スル小半島ナリ、半島ハ南ニ周防灘、東ニ中浦灣、西ハ大海灣ニ臨ミ其最高點ナル小茅山ハ鯨脊狀ノ緩漫ナル隆起ヲ爲シ海拔僅ニ百數十尺ニ過ギザル小丘ニシテ全部秩父古生層ナル輝岩ノ霉爛シテ生シタル粘性強キ土壤ヨリ構成セラル、山ハ樹齡十四五年前後ノ矮松全面ニ枝ヲ交ヘテ密生繁茂シ樹下ニハ草叢極メテ深カシ、自生地ハ小茅山ノ東面及西面ニシテ面積約六七町歩ノ見込ニシテ該地域内ニハ所々ニ散點生育スルガ故ニ草叢ヲ排シテ注意探求スルニアラザレバ短小ナ



ル本植物ヲ發見スルコト容易ナラズ

いちにはつくわ(鳶尾科)ハ世界ニ産スルモノ五十七屬凡ソ七百餘種アル見込ニシテ其内本邦産ノ諸種ハいちにはつ、あやめ、かきつばた、ゑひめあやめ、こかきつばた、ねぢあやめ、ひあふぎあやめ、ひめまやが、まやが等ニシテ何レモ多年生草本、顯花植物ナリ

ゑひめあやめ(*Iris Boottii*)ハ前記ノ如ク鳶尾科植物ニシテ其產地ハ滿州地方ヨリ南漸シテ遂ニ朝鮮半島ニ連亘自生シテ頗ル生育旺盛トナル極メテ小形ナル植物ニシテ其花ハ形狀、色合等普通ノあやめニ一見酷似スルモ萼片濶大ナラズ展開シテ少シク垂レ花瓣ハ萼片ヨリ遙カニ狭小ニシテ何レモ直立ス、梗頭ニ數片ノ苞アリ甲花萎メバ乙花次テ開花スルモノニシテ萎花後結實ス、其葉ハ數葉扁列スルモ葉ノ形狀及構造ハ大ニ相違スル點アリ、開花期ニハ葉極メテ短小ナルモ開花後著シク伸長ス

本植物ハ春期他ノ鳶尾科植物ニ遙ニ率先シテ西浦附近ニ於ケル櫻花ノ終ハル四月中旬ヨリ四月末日頃迄ノ比較的短期間ニ於テ小形可憐ナル藍紫色ノ花ヲ開ク

古來愛媛縣温泉郡難波村腰折山ニ産スルニ依リ產地ノ名ニ因ミテ此名ヲ得タルモノナルモ其後他ニ尙ホ大分、佐賀、山口諸縣下ニ産スルコト明カトナレリ、是等ノ產地ハ四國ノ西北隅九州ノ東北隅、本州ノ西端ナル瀬戸内海ノ略ホ西部海岸ニ近キ部分ニ當レリ此等ノ地方ハ何レモ本植物分布ノ南限地帯ニ當ルト共ニ亦之ニヨリテ日本西南部ト東亞大陸トノ植物分布區系的關係ヲ證明スルコトヲ得ルモノニシテ本植物ハ本邦ニ於テハ分布區域極メテ狭小ナルト其花ノ稀有ニシテ可憐ナルガ爲メ濫ニ採取セラレ易ク此儘ニ放任セバ數年ヲ俟タズシテ根絶ノ虞アルヨリ茲ニ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ天然紀念物トシテ保存指定セラレタルモノナリ

本植物ノ自生南限地帯トシテ同時ニ指定セラレタル箇所ヲ擧グレバ左ノ如シ

愛媛縣温泉郡難波村大字下難波字腰折

山口縣佐波郡西浦村大字湯ノ峠字入江

大分縣東國東郡奈狩江村大字狩宿字向

佐賀縣神埼郡西郷村大字尾崎字日ノ隈



佐賀縣佐賀郡久保泉村大字川久保字蜂谷

以上ノ五箇所ニシテ本洲ニ於テハ唯本縣アルノミ西浦村ニ於テハ本植物ハ形態可憐色合優美ナルガ爲メ古來ひめあやめト稱シタルモノニシテ大正十一年四月初テ當廳ニ於テゑひめあやめナルコトヲ鑑定シタルモノナリ同村ニ於テハ神功皇后三韓征伐凱旋ノ際皇后此地ニ舟ヲ繫ギ給ヒテ移植セラレタルモノナリト傳フルハ其主產地ナル朝鮮トノ關係ヲ巧ミニ連結附會セシ傳説ト謂ハザルベカラズ其後ニ於テ長門ノ西海岸ナル朝鮮海峽ニ面スル豊浦郡小串町夢ヶ岡外一箇所ニ於テモ花崗岩ノ霏爛セル小丘松林中ニ稍ヤ廣大ナル地域ニ其自生地アルコトヲ確メタレドモ該地ハ西浦村ヨリ遙ニ北方ニ位スルガ故ニ本邦ニ於ケル自生南限地帯トシテハ最北ニ位スルガ故ニ天然紀念物ノ指定地トシテハ採リ難キモ本洲ニ於ケル唯二箇所ノ自生地ノ其一ナレバ同地方ニ於テハ植物分布區系的關係ヲ證明スル貴重ナル植物トシテ極力保護シ絶對ニ根絶セザルヤウ努ムベキ義務アルモノトス尙ホ植物研究者モ標本作製ノ爲メ絶滅ヲ來スガ如キ採收法ハ戒メザルベカラズ



森の聲村和共



## 一六 檜の森

指定年月日 大正十四年十月八日

所在地 美禰郡共和村大字青景

鉄道美禰線於福驛ノ東方三里瀧穴ノ北一里半、中尾洞ノ北十町、景清洞及大正洞ノ西一里、嘉万ノ東廿五町ニシテ嘉万迄ハ小郡、吉則、於福、萩各驛ヨリ自動車ノ便アリ。檜ノ森ハ唯ダ一株ノいちゐがしニシテ極メテ壯大ナル發達ヲ遂ゲタルモノナリ。其樹勢堂々トシテ遠望恰モ一大森林ノ如キ觀ヲ呈スルヲ以テ此名アリ。豊浦郡川棚村小野台ニ樟ノ森ト呼ブ一株ノ樟ニシテ指定セラレタル天然紀念物アルハ奇偶ト謂ハザルベカラザルナリ。

檜ノ森ハ根廻リ三十七尺五寸、目通ノ周圍二十八尺五寸ニシテ樹幹ハ一直線ニ伸長シ樹高百十尺ナリ。根元ヨリ十數尺上ボリテ長サ七八十尺ノ蜿蜒タル巨枝十數條ヲ八方ニ伸展シ白晝樹下暗膽タリ、恐クハ本邦第一位ノ檜ノ巨樹ナラン。其所在地ハ人烟ト隔絶シ森ヶ浴ト呼ブ東面スル浴ノ中央ニアリテ前面ニ貯水池



アリ四隣一面竹林及鬱蒼タル雜木林ナレバ附近ノ光景ト相俟ツテ凄絶ナリ  
 該樹ハ地名ニ因ミテ別名青景の檜又ハ河内の檜トモ呼ブ古來巨大ナル蛇ノ棲息  
 所ナリシトイフ傳説ニ依リテ蛇の森トモ云フ  
 總テノ老樹名木ハ夫々奇異ナル傳説ト迷信ヲ伴フモノナルガ本樹モ亦其例ニ洩  
 レズ古來獵夫樹影ヲ認メ得ル地ヲ通過ノ際若シ人ニ出會フコトアラバ相手ノ老  
 幼ヲ分タズ成敗如何ヲ問ハズ相撲ヲ取ルニアラザレバ其日ハ如何ナル努力ヲ爲  
 ストモ獲物ナシトイフ迷信アリ又昔時樹下ニ一個ノ石地藏アリシガ何時トモナ  
 ク樹幹中ニ卷込ミ今ハ其影ヲ見ルヲ得ザルニ至レリト云フ傳説アリ  
 かしノ種類ニしらかし、あかやし、くろがし、うらじろがし、つくばねがし、  
 いちのゐがし等アリテ夫々多小ノ相違アリ  
 いちのゐがしハ葉ノ上半部ニ鋸齒ヲ有シ裏面ニハ淡黃褐色ノ微毛ヲ生シ種子ノ皮  
 ニ多ク縱線ヲ有ス此樹ハ性質陰濕ノ地ヲ好ムガ故ニ多ク谷間ニ生育ス  
 材ハ船ノ舷ニ適スルガ故ニ櫓樑トモ書ス一挺ノ舷材ニシテ數十金ニ價スルモノ  
 アリ其他槍柄ニ適スルガ故ニ藩ノ留木トナリ特別ノ保護ヲ受ケタルコトアリ、

大正十五年三月十二日印刷  
 大正十五年三月十六日發行

(非賣品)

山 口 縣

山口縣廳内

印刷所 山口縣印刷所



145  
127

大正十五年三月十六日發行  
大正十五年三月二十二日發行  
（發行所）  
山 日 報  
東京市丸の内區丸の内三丁目



14.5  
127



終

